

Vent

音楽教育 ヴェン vol.49

特集

新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『高校生の音楽2』『MOUSA 2』のご紹介
[高等学校用教科書 内容解説資料]

参考楽譜

『音楽をはじめましょう』『ブロッコリーのおぼけ』
(作詞・作曲：伊藤健二)



音楽には力がある、意味がある。

ことばにすると、またすぐに、音楽に力なんて、意味なんてない、とのことばもでてきます。かみあわず、平行線をたどってしまう。でも、これって抽象です。

音楽ってものがあるわけじゃなくて、個々の楽曲や、楽曲にならない切れはしや、ただの音のありようだったり。いつでも・どこでも、なんてことはないし、どんな音楽かだっただけ。どんなとき、どんなところで、が、ひとりひとりに結びついている。

外にむけて力や意味があったりすることもあるでしょう。とはいえ、いちばんはじぶんに、です。じぶんになんらかのはたらきがある。あの曲が、このときに、力を、意味を与えてくれます。いつでも・どこでも、でなくていい。そういうときがある、というのを知っておく、忘れないでいる。つよいだけではない、よわい力もある。そんな複合的なありかただっただけ。

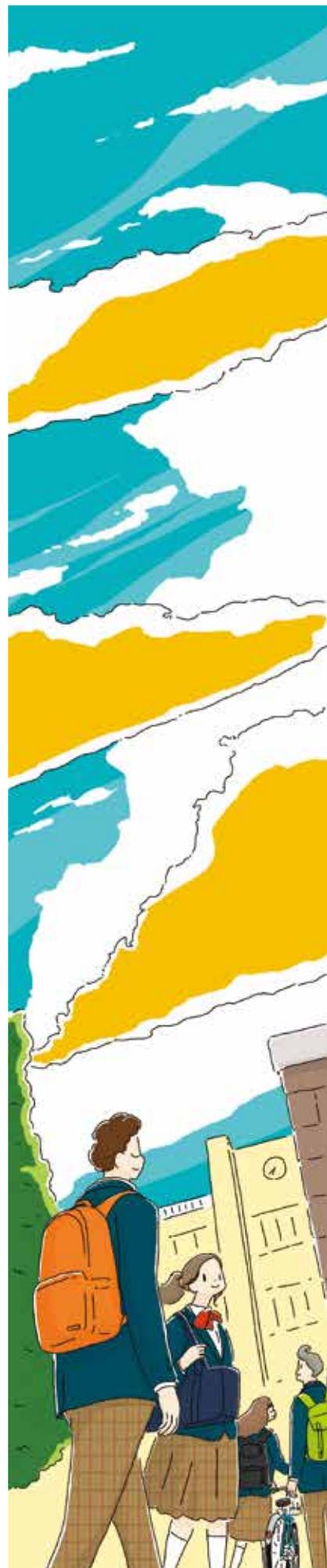
好きでないかもしれないものが、あるとき、わかる、しみこんでくる。だから、いろいろふれておいたほうがいい。どんなときにどんなものが大切になるかわからないから。持っていないければ、知らなければ、蓄えておかなければ、おもいだすこともできないから。

いろんなかたちやはたらきがあるのが音楽で、音楽と意識してもしなくても、いつのまにか持っているのが音楽=意味、なのかも。

小沼純一(早稲田大学 教授)

Contents

- 03 授業者に訊く①
岩野牧人 (大阪府立すながわ高等支援学校 教諭)
- 08 授業者に訊く②
伊藤健二 (桐朋学園小学校 教諭)
- 13 特集
新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『高校生の音楽2』『MOUSA2』のご紹介
[高等学校用教科書 内容解説資料]
- 26 Kyogei Presents
音楽診断
[第14回] ヴェルディの名作オペラ編 (監修・解説: 岸 純信)
- 28 Information
- 30 参考楽譜
『音楽をはじめましょう』『ブロッコリーのおばけ』
- 34 エッセイ
新・音から広がる世界 [第9回] 藤原道山





『Stand By Me』を合奏する生徒たち

授業者に 訊く①

今回の「授業者に訊く」でご紹介するのは、大阪府立すながわ高等支援学校の3年生の授業です。岩野先生自作のアニメーション楽譜による、生徒たちの息の合ったギター合奏がとても印象的でした。対談では、アニメーション楽譜を用いた授業方法やふだんの指導で大切にされていることなどについて、お話を伺いました。

授業者：岩野牧人（大阪府立すながわ高等支援学校 教諭）

聞き手：上野智子（和歌山大学 准教授）

※取材は感染症対策を講じたうえで、2021（令和3）年12月に行われたものです。
※顔写真撮影時のみ、マスクを外しています。

授業の本時の位置付け

約1ヶ月半に渡って取り組んだギターの学習のまとめとして、教育芸術社「高校生の音楽2」掲載曲『Stand By Me』のギター合奏に取り組みます。演奏のための視覚支援教材として、「アニメーション楽譜」を作成し活用します。生徒たちは、タブレット端末で動く楽譜を見ながら、音を鳴らす正しいタイミングを意識して演奏します。障がい特性から周りに合わせることが難しい生徒も多いですが、合奏を通してみんなで奏でる音楽のよさを感じ取り、仲間との絆を深めることをめざします。

授業の流れ

	時間	学習内容
導入	10分	○あいさつ ○好きな曲紹介 生徒1名がお気に入りの曲を流し、好きな理由や聴くとどんな気持ちになるかなどクラスメイトへ向けて紹介する。
	5分 10分 5分 5分	○目標の確認 ○グループ練習 メロディー、コード、ベースそれぞれのグループごとに集まり、練習を行う。 ○グループごとに演奏を発表する 発表を聴く人は演奏のよいところを考えながら聴き合う。 ○合奏 アニメーション楽譜の再生のタイミング、音を鳴らすタイミングを合わせて演奏することを意識する。
まとめ	5分 10分	○自分たちの演奏の様子を動画で振り返る ○感想を述べ合う ○あいさつ



岩野牧人先生(授業者)と上野智子先生(聞き手)

アニメーション楽譜を活用した授業づくり



○ 上野智子(うえの・ともこ)
和歌山大学 准教授

「できない」から 「できる」へ

上野: 教室がとても広くてきれいですね。

岩野: ここはアクティブラーニングルーム
といって2020年に完成したばかりの新しい
教室です。泉南支援学校とすなわ高等支援
学校の音楽の授業などで使用しています。

上野: 同じ敷地内に2つの学校があるの
ですね。

岩野: 閉校した大阪府立砂川高等学校の
校舎をそのまま活用する形で、2014年に
現在の2校が開校しました。主に、1階から
3階までが泉南支援学校、4階がすな
わ高等支援学校のフロアになっていて、
共有で使用する特別教室などがあります。

上野: プロジェクターや可動式の机・椅子
など、設備が充実していますね。

岩野: せっかく広い教室があったので、
2校間で協力し、アクティブラーニングを
実践する拠点となるような教室をめざして
整備しました。プロジェクターを床面に
投影することで、支援学校で取り組む自
立活動におけるコグニティブトレーニング
の実践なども行っています。

上野: 授業を拝見して、とても落ち着いた
印象を受けました。この学校に支援学
校や支援学級から入学してくる生徒さん

は、どれくらいいらっしゃるのでしょうか？

岩野: 年度によって差はあるのですが、支
援学校の中学部から入学するのは全体の
約1割から2割ほどで、ほとんどの生徒が
一般の地域の中学校から受験してきます。

上野: 授業中、お互いの音を聴き合い、
集中してギターの練習に取り組む生徒さ
んの姿がたいへん印象的でした。私がこ
れまで関わってきた支援学級の子もた
ちは、楽器がうまく弾けないとか、思う
ように歌えないとか、中学校までの音楽
の授業で苦しい思いをした子が多かった
ように思います。

岩野: 仰るとおりです。やはり中学校ま
での経験というのが彼らにとっては大き
いようで、楽器を上手に演奏できない、
指がうまく動かせないなど、周りとは比
べて「できない」という経験を重ね、自信を
失っている子どもが多いような印象でし
た。そういった子どもたちに対して何が



授業の様子

できるかを考えたときにたどり着いたのが、視覚支援の一つであるアニメーション楽譜を用いた授業づくりでした。

生徒から学ぶ音楽

上野: アニメーション楽譜を使った授業に、ギターを選ばれた理由は何ですか？

岩野: ギターは生徒にとって憧れが強い楽器なんですよ。高校生くらいになるとギターが弾けたらカッコいいとか、そういう思いを誰しも持つと思うんです。なので、取っ付きやすい生活年齢に合った楽器であるというのは理由の一つに挙げられます。

上野: ギターは運指が複雑なうえ、読譜や合奏など越えなくてはならない壁がたくさんあるように思うのですが、どのように指導されていたのでしょうか？ また、ICTを使ったアニメーション楽譜を発案されたきっかけについても教えてください。

岩野: ギター学習を初めて授業に取り入れたのは、私がこの学校に赴任してから2年目のことです。当時は、先輩の先生

から教えて頂いた支援楽譜(色楽譜)を使って授業をしていました。しかし、紙の楽譜だと音を鳴らすタイミングが掴みづらい、合奏がまとまりにくいという欠点がありました。この問題を何とかするためにICTの活用を始めたのが、アニメーション楽譜発案のきっかけです。

上野: 子どもたちにとって、タイミングを合わせたり、お互いの音を聴き合いながらテンポを保持したりすることは、思いのほか難しいですよ。でも視覚的な誘導や言葉を使った動作でタイミングを合わせることはできます。このアニメーション楽譜の、点線で音を鳴らすタイミングをガイドするアイディアは、すごくおもしろいと思いました。

岩野: このアニメーション楽譜は「太鼓の達人」などのいわゆる音ゲー(音楽ゲーム)や、彼らがよく遊んでいるというスマートフォンゲームから発想を得ました。

上野: 生徒たちの生活の中から得たヒントを授業に応用されているんですね。

岩野: 本日の授業冒頭で行った「好きな曲紹介」でも、生徒はとても意外な曲を選んできて。

上野: 『初音ミクの消失』というボーカロイドの楽曲でしたね。

岩野: こんな音楽があったのかと驚きました。私自身、生徒から学ばせてもらう機会が多いです。

上野: 音楽の授業が生活とつながる形で広がっていて、すてきだなと思いました。

岩野: 「好きな曲紹介」は毎時間一人ずつ行っていて、授業終わりに教室入り口にある「好きな曲の木」に、紹介した曲を書いた紙を貼っています。この活動によって、曲を紹介する生徒はプレゼンテーション力や人前で話す力を養い、聴く側は「こんな曲があったのか」と自分の世界



○ 岩野牧人(いわの・まきと)
大阪府立すなわ高等支援学校 教諭

を広げることができます。新しい学習指導要領に「音楽文化と幅広く関わる資質・能力」という項目が増えたと思うのですが、その辺ともマッチする活動のかなと思っています。

上野: 学校教育において、自分と音楽との関わりを考える時間は大切ですよ。とても刺激的な活動でした。



好きな曲の木

アニメーション楽譜とグループ活動

上野: アニメーション楽譜を活用したことによって、生徒さんにどのような変化がありましたか？ また、指導面における効果についても教えてください。

岩野: これまで紙の楽譜を使って指導していたときは、合奏でタイミングの取れない生徒に教員がつきっきりになって教えていました。それがアニメーション楽譜の導入によって、タイミングを視覚的に把握しながら楽器を鳴らせるようになり、生徒が主体的に授業に参加するようになったと感じます。生徒からは「ゲームをクリアしていく感覚で楽しくできた」とか、「自分で練習を進められるから自信をもって演奏できた」とか、前向きな意見が多く出ました。指導面においては、クラス全体を客観視できるようになり、音楽性の高い助言や、つまづいている生徒に対して個別指導ができるようになったことが大きなメリットです。結果的に、ICTのおかげで個別最適化された学習を実現できたのかなと思っています。

上野: 個別最適化というのは私も感じていて、生徒が自力で課題を見つけ出し、自分たちに合ったやり方で、自信をもって練習を進めている点が素晴らしいなと思いました。

岩野: 授業では、始めに「簡単ベース」というパートを全員で練習しました。文字どおり、いちばん難易度の低いベースパートです。その後、コード、旋律の練習を通していちばん得意なパートを選んでもらう予定だったのですが、今回は生徒たちの就職に関わる実習で時間が取れず、私のほうでパート決めを行いました。

上野: グループごとに演奏を発表する場面では、生徒さんたちが他のグループの演奏を一生懸命に聴いていましたね。

岩野: お互いの練習成果を聴き合う活動は今日初めてやったんです。それまではパート練習や個人練習が中心だったので、生徒たちも他のパートの発表を見て「こんな練習をしてたんだ」「こんなことまでできるんだ」と驚いていたと思います。「頭では分かっているのに弾けない」と嘆いていた生徒が、諦めずに発表に取り組んでいる姿を見たときは、とてもうれしくなりました。

上野: 苦戦している友達を気にかけている人もいて、生徒一人一人から音楽に対する情熱と、仲間との音楽づくりを大切にしたいという思いを強く感じました。また、パート練習の際に先生が「ベースは縁の下の力持ちだよ」と仰っていたのを聞いて、パートの役割や音楽的な説明を、実践の中に分かりやすく取り入れられているのかなと感じたのですが、いかがでしょうか？

岩野: 生徒は、いきなり理論的なことを説明されると拒絶反応を起こすんですね。ですので、こうした活動の中に、できる限り何げない形で取り入れることを心掛けています。

上野: 将来的にアニメーション楽譜なしでの合奏も視野に入れていますか？

岩野: そうですね。アニメーション楽譜は個人プレーに陥りやすいという欠点があるので、あくまで補助的な扱いで、ゆくゆくはお互いの音を聴き合い、ビートを感じながら演奏できるところまで持っていったらなと思っています。仲間のことを思いやれる生徒ばかりなので、彼らの性格や人間性を音から感じ取っていただけたらうれしいです。

誰もが活用できる教材をめざして

上野: ICT教材を準備される際、気を付けていることや大切にしていることはありますか？

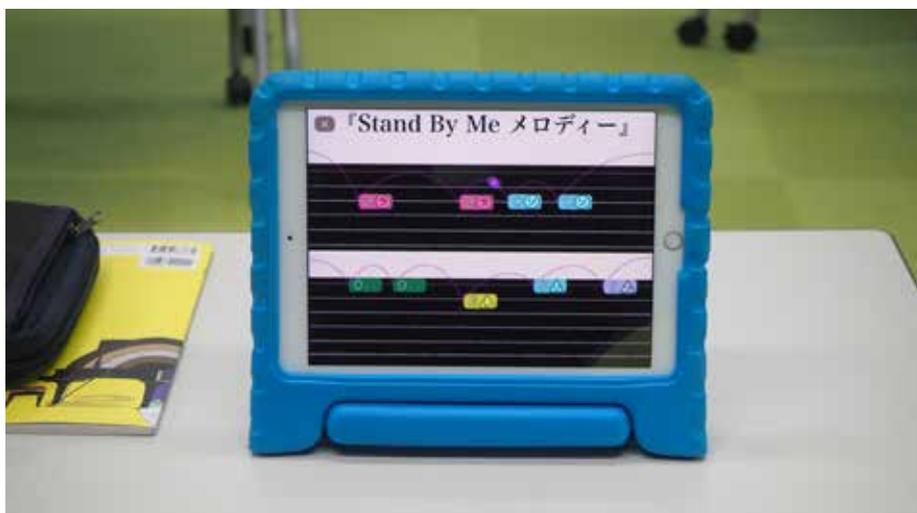
岩野: 自己満足に陥らず、生徒にとって分かりやすく演奏しやすい教材を作りたいことをいちばんに心掛けています。

上野: アニメーション楽譜制作は、岩野先生お一人で手掛けていらっしゃるのですか？

岩野: 赴任当初、私は動画編集の技術を持ち合わせていなかったのですが、iPadに入っているKeynoteというプレゼンテーションソフトを使ってアニメーション楽譜を自作していました。4分音符を1秒として、8分音符を0.5秒、16分音符を0.25秒に設定して、ドとソは4分音符だから2音間は1秒で移動させて……という形です。

上野: コロナ禍において、アニメーション楽譜を活用してよかったことは何でしょうか？

岩野: この楽譜を使って演奏した録音は、テンポが全て一緒になるので、他学年の録音を組み合わせることで複数学年による合奏を実現できます。学年を超えたりリモート合奏が可能になったことは、ICT



アニメーション楽譜の表示された生徒のタブレット

を活用したコロナ禍の成果の一つなのかなと思っています。

上野:リアルタイムでのリモート合奏もされるのですか？

岩野:今現在は技術が追いつかず、実現に至っていませんが……私が担任している3年生のクラスに、難病を患って入院した生徒がいました。ちょうどその頃、ヤマハのポーカロイド教育版を使った授業をしており、実際にGoogle Meetで彼の病室と教室をつないで、作曲の授業をしたという経験があります。彼はすごく音楽が好きで、自主的にソフトを導入してくれていたため、一緒に曲づくりができました。

上野:ICT教材の導入コストが、授業で活用する際のネックになることはあり得ますよね。

岩野:私はICTを活用した教材を作る際、「誰でも活用できるもの」を常に意識して作っています。本日の授業で使用した『Stand By Me』、過去に手掛けた『きらきら星』『大きな古時計』といったアニメーション楽譜は、誰でも活用できるようにYouTubeにアップロードしています。

上野:卒業してもギターがあれば、YouTubeを見て練習ができるということですね。

岩野:そうですね。それに加えて、指板の上に貼るシールなどもダウンロードできるようにしています。生徒たちがこれらの教材を活用してくれていたらうれしいです。

上野:授業での経験を通して、生徒さんたちが生涯に渡って音楽を楽しんでくれたら何よりですね。すてきな授業をありがとうございました。



グループ練習の様子



グループ発表の様子



岩野先生が作成したアニメーション楽譜は、YouTubeチャンネル「アニメーション楽譜」より、ご自由に閲覧いただけます。

https://m.youtube.com/channel/UC13wnzxQDhsyngK0Fc_84ww

校長先生より

本校は、知的障がいのある生徒が、就労を通じた社会的自立を支援する学校として、「つながり たかめあい チャレンジ」の校訓のもと、安全で安心できる学校づくりを大切に、併設する泉南支援学校や、久米田高校と信太高校に設置する共生推進教室との授業や交流活動など、ICTを活用した教育活動に取り組んでいます。職業に関わる授業が時間割の3分の1を占め、現場実習や進路面接でなかなか生徒全員がそろわない中、先生方はさまざまな工

夫を重ねながら授業をされています。ふだんの授業やアクティブラーニングなどの活動を通して、生徒が自分らしく生きていくことに自信をもち、卒業後、社会の一員として活躍してくれることを願っています。

土口千恵子 先生
大阪府立
すなわ高等支援学校 校長





ハンドサインを用いた音程の学習『どれみビンゴ』

授業者に 訊く②

次にご紹介するのは、東京都国立市にある緑豊かな桐朋学園小学校の2年生の授業です。導入は、伊藤健二先生が子どもたちのためにつくった曲や、季節の歌を、体を動かしながら歌うことからスタートします。また、子どもたちは1人で歌う活動に立候補したり、グループ学習で真剣に練習したりするなどして、積極的に音楽に取り組んでいました。今回は伊藤先生が指導の際に大切にしていることについて、お話を伺いました。

授業者：伊藤健二（桐朋学園小学校 教諭）

聞き手：松長 誠（所沢市立中央小学校 教諭・合唱作曲家）

※取材は感染症対策を講じたうえで、2021（令和3）年12月に行われたものです。
※顔写真撮影時のみ、マスクを外しています。

授業の本時の位置付け

本授業で中心に置いたのは、交互唱の（フレーズを歌いつないでいく）活動です。本時の活動を通じて、自分やお互いの歌声をさらに知るとともに、歌声による音の対話のおもしろさや人数による強弱の変化のおもしろさに気づき、声を合わせて歌う喜びをいっそう深く味わうことを目指しました。ハンドサインを用いた音程の学習は、わらべうたの活動とつなげて1年生から継続して少しずつ音域を広げながら進めています。

授業の流れ

学習内容

導入	○音楽の開始の合図として『音楽をはじめましょう』を歌う
	○ウォーミングアップ ・体を動かしながら『プロコリーのおぼけ』、『夏みかんの歌』、『ジングルベル』を歌う。 ・『サンタがまちにやってくる』を歌う。1人あたり、1つのフレーズを歌い、最後のフレーズは全員で歌う。
展開	○どれみビンゴ ・コダーイのハンドサインを用いて、3つの音（ド・レ・ミ）を学習する。
	○たき火 ・ハンドサインを用いて全員で歌う。 ・合奏（ハンドベル）の練習をグループで行う。



松長誠先生（聞き手）と伊藤健二先生（授業者）

子どもたちの感性を大切に 「歌いたい気持ち」を育てる



導入で『ブロッコリーのおばけ』を歌う

童謡・唱歌も教材に

松長：現在はコロナ禍で活動が制限されており、全国の先生方は大変な思いをされていますが、伊藤先生はいかがですか？

伊藤：正直なところ、子どもたちが手をつないで遊ぶ活動ができないことは、残念です。

松長：そうですね。接触して行う楽しい活動ができないわけですから。私も例えば『ずいずいずっころぼし』では指ではなく棒を使用するなどして、非接触でも楽しめるように変更して行った活動も多いです。逆に充実したことや新しい発見はありましたか？

伊藤：コロナ禍で取り入れた、ハンドベ

ルの活動にはさまざまな可能性を見出せました。そして何より、人間にとって音楽がこんなにも必要であるということを感じられたのは、私だけではないはずです。

松長：音楽科教師だけでなく、全人類が痛感したことですね。そのような中でも今回、伊藤先生の授業では、学習指導要領の目標「音楽活動の楽しさを体験することを通して」を貫いておられたように感じました。全体を通して音を出す活動が多かったように思いますが、それは意識的にされて行っているのでしょうか？

伊藤：はい。私が大切にしているのは、週に2時間という少ない音楽の授業の中で、子どもたちにできるだけたくさんの時間、音楽に触れさせることです。子ど

もたちとのやりとりも、できるだけ音楽的なキャッチボールを意識しています。

松長：導入の常時活動には伊藤先生がつくられた曲や、季節の歌などがありましたが、教材選びのポイントはありますか？

伊藤：本校は私学なので、ある程度は自由にカリキュラムが組めます。そのため、教材は自分でつくことも多いですが、毎年同じではなく、子どもや状況の変化にも対応しています。教材は教科書の曲だけではなく、曲集や童謡唱歌全集からも選びます。童謡や唱歌は音楽が美しいだけではなく、四季の移り変わりや生き物の様子など日常の中で感じられる身近な自然の美しさが表現されている作品も多くあります。感性の豊かなこの時期に、子ども



○ 松長 誠(まつなが・まこと)
所沢市立中央小学校 教諭・合唱作曲家

たちを美しい音楽に触れさせたいのです。

松長: 今回の学習指導要領の改訂では、鑑賞共通教材の24曲の扱いが変わりました。特に高学年では、4曲中3曲を必ず扱うということで、位置付けは強くなったと思います。これは、日本の歌や心のようなものを大切にしているのかなとも思えます。そういう意味では歌唱共通教材以外でも、童謡など歌い継がれてきた曲をチョイスしていくことは、教材選びの視点として必要だと感じます。

感覚の意識化と価値付け

松長: 本日の授業には、コダーイのハンドサインを使った「音の高さ」の学習がありました。伊藤先生は、子どもの声に

対して、すぐにポジティブな言葉でフィードバックされていましたね。例えば「大事なことは音の高さをつけることだね」など。子どもたちが感覚で処理してしまうところを、教師が意識化して価値付けてあげることが大切な作業だと授業を見て思いました。

伊藤: 感覚を培うために、子ども自身が意識して歌うことは大切だと思います。よいと思ったところは一言「いいね」「きれいだね」だけでも、フィードバックするように心がけています。

松長: 子どもたちに気付かせることにより、知識と技能が関連付けられ、次の教材へと進むのだと感じます。音高の活動は『たき火』のハンドベルの演奏につながって、最終的には合奏の計画を提示されていました。『たき火』では、歌いながらハンドベルを鳴らしている子どもが多かったですね。

伊藤: 1年生から音の高低を意識するために学習してきたことの延長が『たき火』です。コダーイのメソッドでは、子どもたちに最初から「ドレミファソラシド」の音を全て教えるのではなく、最初は2音の学習から始まります。それを参考にして、私も最初は1年生では「ド」「レ」から始めて、徐々に音のパレットを増やすようにしてきました。『たき火』は主にペンタトニックでつくられているので、音程の

学習に適しています。このコロナ禍から取り入れたハンドベルの合奏は、内的な聴覚を養うのにも適していると思います。ハンドベルで自分が出す音は1つですが、頭の中では他の人の奏でる音も歌わなければならないですし、拍をみんなが一緒に感じていく必要がありますから。

音楽科での「対話」

松長: 先生は子どもたちの個性を大切に、授業をなさっているように見えました。学習指導要領では「感性を育むとともに」とあります。ここでの感性とは、リズム感とか音高感とか音楽に直結する感性もあれば、音や音楽の美しさなどを感じ取る時の心の働きでもあることが示されています。子どもたちが楽しそうに歌ったり体を動かしたりする姿を見て、子どもたちの感性がよく働いていた授業だったと思います。

伊藤: ありがとうございます。うれしいです。

松長: 公立学校では学習指導要領に基づいて指導を行うわけですが、新たに示された「主体的・対話的で深い学び」は大切な視点だと思うんです。児童に教材の魅力の魅力を十分に示せれば、「主体的な学び」を引き出すことは容易です。一方で「対話的な学び」は、教師が引き出した、仕掛けたりする難しい面があると思



『たき火』を歌う

います。先生が授業で意識されていることはありますか？

伊藤：例えば今回の授業ですと、『サンタがまちにやってくる』を1人ずつ歌っていったり、半分に分けて歌ったりしましたが、それは「対話的」になると思っています。本来、音楽自体が対話であり、1人で演奏しても、合奏しても、「対話的」という感覚は存在します。1人ずつ歌う際、前の歌っている子の声を聴いて、そこにつながるように歌おうとするのも対話ではないでしょうか。子どもたちが頭の中で歌えていて、それが音としてつながっていくやりとりは、「対話的」になっていると思います。

松長：音楽特有の対話的場面ですよ。 「対話的」という言葉は、言語活動にウエイトが置かれがちですが、音楽科に限っては、音を介してというのが必須条件だと思います。それから、先生が子どもたちに「先生は、挑戦しようとする気持ちがすばらしいと思うよ」と伝えていて、これは「学びに向かう力」への称賛の言葉掛けだと思いましたが、「1人ずつ歌いたい人いる？」という声掛けは、主体的な態度を引き出すものでした。今回、学習指導要領で教師の役割が初めて明記されたわけですが、音楽科ではさまざまな形で対話することが可能ですね。

教材をつくること

松長：私たちは曲をつくりますが、お互い「教材づくり」という意識は外せないですね。

伊藤：はい。松長先生は定期的に曲をつくられていますが、どのようにつくられていますか？

松長：私が曲をつくるうえで大切にしているのは、まず児童の実態に合っているかということです。そして、児童が「歌ってみたいな」とか、先生が「歌わせたいな」とか感じてもらえるもの。他の題材との関連や音域なども大切にしていますし、「この曲を歌うとこういう知識や技能が育つ」などの、教材性のある教材になるように意識はしています。今回、本誌でも掲載する『音楽をはじめましょう』『ブロッコリーのおぼけ』は、どのようなことをきっかけにつくられたのでしょうか？

伊藤：『ブロッコリーのおぼけ』については、ずいぶん昔の話になりますが、音楽準備室にきた子どもたちが「ブロッコリーのおぼけー！」と言って立ち去ったことがありました。担任の先生から「音楽室にはベートーヴェンのおぼけがでるよ」なんて冗談を言われたからだそうですが、その「ブロッコリーのおぼけ」という言葉のリズムが頭に残ったところから書きました。

松長：特徴的なリズムですよ。『音楽を



○伊藤健二(いとう・けんじ)
桐朋学園小学校 教諭

はじめましょう』はいかがでしょうか？

伊藤：「音楽の授業はどう始めるのがよいのかな」と考えていたことがきっかけです。音楽室が教室とは離れたところにあるため、のんびりして遅れて来る子もいます。それに、音楽係の子が「静かにしてください」と言ってもなかなか静かにならない。だからと言って、私が「始めるよ」と声を大きくするのはいやだなと。自然に授業に入ることのできる、音楽を始めるための歌があってもよいのかなと思ってつくりました。

松長：だから、歌詞の中に「チャイムが鳴ったら席に」と入っているわけですね(笑)。

伊藤：そう書けば、子どもはその瞬間に席に座ってくれるだろうと思って(笑)。案の定、子どもたちは歌いながら音楽室



『たき火』の合奏のグループ学習

に入り、自ら座ようになりました。最後の「音楽を～始めましょう!」もポイントで、「音楽を」のときに体を小さくして、「始めましょう!」で発散してポンとポーズを決めると、子どもたちもすっきりして授業に入ることができます。

松長: この「発散すること」は、音として表現されていますよね。自然と席につきたくなるので、音楽の力を使ったよい教材だなと思いました。教材は既存のものを選ぶこともよいけれど、学校で生まれた歌詞は子どもたちに直結していますので、それもまたよいものだと思います。

子どもが自ら歌う授業を目指して

松長: 最後に、指導において伊藤先生はどのようなことを大切にされていますか？

伊藤: 低学年・中学年・高学年と発達段階によって音楽の捉え方はずいぶん変わってくると思いますが、低学年で特に大切にしているのは、感性を研ぎ澄ませていくことです。私が子どもの頃よりも、今はずっと刺激にあふれた世界に変化しています。濃い味のものばかりを食べていると薄味を感じなくなってしまうように、刺激が強いと感覚は鈍ってしまうと思います。だから、この感覚のしなやかな時期に、できるだけやさしい音に触れていくことを大切にしたいのです。

松長: それはとても共感します。多くのエ



『サンタがまちにやってくる』

ンターテインメントは、視覚の効果が強いですよね。だからこそ、音楽科の授業では、音や音楽そのものに価値を見出せるよう、感性を育てる必要があると感じます。

伊藤: 音の使い方としては、ピアノを使い過ぎないように気を付けています。ピアノをたくさん鳴らすと、子どもたちがその刺激に引っぱられてしまいます。文化的な背景もあると思いますが、日本人は伴奏無しに歌うことに抵抗がありますよね。それに、私が知る範囲では日本人には「音楽＝ピアノ」「音楽の先生はピアノが弾けなければならない」という意識があるように感じます。音楽ってもっと人間の内側から湧き上がってくる自由なものだと思うのです。

松長: 音楽は「歌」というアカペラから始まり、子どもたちの誰もが「声」という楽器をもっています。

伊藤: その「声」を大事にして、何もないところで子どもたちが自ら歌うような授

業を目指したいんです。もちろんピアノはすばらしい楽器ですけど、子どもたち全員に「声を出すことが気持ちいいな」と思ってほしい。そのためには授業の雰囲気も、お互いの歌声を認め合っていくことも大事です。子どもたちのエネルギーを音楽に乗せて経験を積んでもらうことで「音楽って楽しい」という気持ちにつなげたいです。

松長: 仰るとおりだと思います。多様な表現がある中で、「どれがいいか」という答えのない価値観を突き合わせることに、音楽科の本質がありますよね。音楽科で育てたいのは、豊かな情操であり、幅広く言うところの心の面です。授業ではさまざまな音楽表現をして、友達の多種多様な表現や意見を尊重し、それらを認め合える雰囲気をつくる必要があります。道徳とも似ていますが、人が育つ土壌を養うようなことが、音楽科教師に課せられた使命だと私も感じているところです。



対談の様子

校長先生より

本校は幸い、たいへん縁に恵まれ、児童はのびのびと学校生活を送りながら、感性を育むことができる環境に置かれています。子どもたちにとって、「感じること」「疑問に思うこと」「驚くこと」は大切です。さまざまな体験に取り組み、興味関心や可能性を広げながら、子どもたち

の感性がいつそう豊かになるよう、教員は寄り添いながら指導に励んでいます。

はらぐちだいすけ
原口大助 先生
桐朋学園小学校 校長
桐朋中学校・
桐朋高等学校 校長



新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書

『高校生の音楽2』 『MOUSA 2』のご紹介

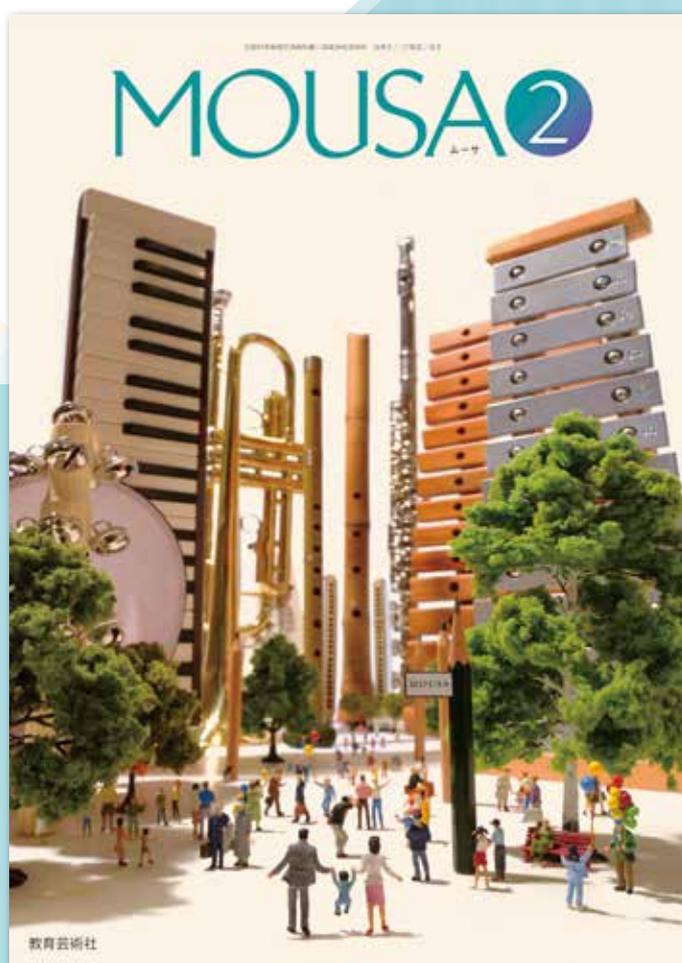
[高等学校用教科書 内容解説資料]

令和5年度から高等学校用教科書『高校生の音楽2』『MOUSA 2』が改訂されます。教育芸術社では、音楽科の果たす役割を考えながら、今日的な教育の課題に対応した、新しい時代にふさわしい教科書づくりを目指して編集してまいりました。

新しい2つの教科書のポイントについて、それぞれ3つの視点からご紹介します。



令和5年度『高校生の音楽2』



令和5年度『MOUSA 2』

- ① 新しい『高校生の音楽2』『MOUSA 2』
- ② 教材紹介
- ③ QRコンテンツ

① 新しい『高校生の音楽2』

『高校生の音楽』は、「人生を豊かにする教科書」であることをコンセプトに編集しています。声を合わせて歌ったり、よりよい演奏を工夫したり、一つの作品を深く味わったり、さまざまな音楽のあり方に触れたりして、音楽の多様な価値を見いだすことで、使った人の人生が少しでも豊かになるような教科書を目指しています。



P.2・3 口絵

1. 音楽の魅力に迫る「音楽って何だろう？」

音楽そのものの魅力や不思議にさまざまな視点から迫るシリーズです。「音楽」と「料理」を比較して多様な音楽に触れることの意義を考える口絵に始まり、メロディーやリズム、コード進行などに注目しながらポピュラー音楽を味わうページ、音楽作品から当時の社会のあり方を読み取るページ、音律や音階を手がかりにさまざまな音楽の響きに注目するページを掲載しています。

2. オールドックスな定番曲を多数掲載

歌曲や合唱曲はもちろん、ポピュラー音楽、西洋音楽、日本音楽、世界の諸民族の音楽など、さまざまなジャンルの音楽から教材性の高い定番曲を厳選して掲載しています。

3. 一歩踏み込んだ鑑賞のアプローチ

鑑賞教材は、作品紹介だけにとどまらず、作品をより深く味わうためのさまざまな仕掛けをちりばめています。西洋音楽はもちろん、日本音楽や世界の諸民族の音楽の各教材にも、それぞれに適した鑑賞のアプローチを提案しています。

4. QRコンテンツの充実

歌唱曲の伴奏や原語歌詞による発音をはじめ、日本音楽や世界の諸民族の音楽の授業に役立つ音源や動画を充実させています。また、コード表からは、各コードのギターとキーボードの実演動画も視聴することができます。

2 教材紹介

鑑賞 西洋音楽

西洋音楽の鑑賞では、作品紹介だけにとどまらず、それぞれの作品をより深く味わうためのさまざまなアプローチを提案しています。

社会の大きな変革と音楽家 New ～モーツァルト三大オペラ～

1789年のフランス革命をきっかけにヨーロッパの社会は大きく変わっていきました。その前後を生きたモーツァルトの3つのオペラ作品の鑑賞を通して、音楽作品とその文化的・歴史的背景との関わりを理解します。

作品名	《フィガロの結婚》	《ドン・ジョヴァンニ》	《魔笛》
初演	1786年	1787年	1791年
言語	イタリア語(宮廷の言葉)		ドイツ語(庶民の言葉)
概要	庶民が貴族を懲らしめる 貴族批判の物語	大貴族が地獄に落ちる 貴族社会の崩壊を 描いた物語	光の世界が闇の世界に 打ち勝つ =市民社会が貴族社会に 打ち勝つ物語



P.46

主な登場人物とその関係性について視覚的に理解することができます。

各作品を理解するための必要最低限のあらすじを掲載しています。

各作品のよさを味わうことができる聴きどころを紹介しています。

各作品とその文化的・歴史的背景との関わりを理解することができます。



P.47

貴族社会から市民社会への変化は、音楽家の生き方そのものを変えてしまうほどの出来事でした。ここでは、モーツァルトの人生をたどりながら、彼がいかに社会の情勢に振り回されていたかを描いています。

モーツァルトの生き方と、その少し後に活躍したベートーヴェンの生き方との比較を通して、各作品をより深く鑑賞することができます。

時代を超えて鳴り響く《怒りの日》

西洋音楽の作品では、「最後の審判」の様子が描かれたグレゴリオ聖歌《怒りの日》の旋律がしばしば引用されてきました。ここでは、グレゴリオ聖歌《怒りの日》を含めた7つの作品の鑑賞を通して、それぞれの作品のよさを味わいます。

QR音源を参考に《怒りの日》を実際に歌ってその雰囲気を感じ取り、各作品を鑑賞する際の手がかりとすることができます。

音楽史上の大事件となった《春の祭典》

ストラヴィンスキーのバレエ《春の祭典》の初演では、その聴きなれない音楽に対して聴衆が大騒動を起こしました。ここでは、実際に音を鳴らして、その斬新なリズムや和音の特徴を確認しながら、作品の魅力を味わいます。

鑑賞 世界の諸民族の音楽

世界の諸民族の音楽では、『ラーマ物語』を題材にしたアジア諸国の芸能を聴き比べる教材と、カメルーンの熱帯雨林で暮らす民族の音楽を紹介した旅行記を掲載しています。



P.62・63

孫悟空でなじみの深い『西遊記』についても触れ、各芸能を身近に感じられるようにしました。



P.64・65

New

カメルーンの熱帯雨林の中で体験した音楽や、都市部で出会ったポピュラー音楽について、実体験に基づいて記述しています。

新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『**高校生の音楽2**』のご紹介
[高等学校用教科書 内容解説資料]

鑑賞 日本音楽

日本音楽の鑑賞では、日本の伝統音楽の大まかな流れと共通する特徴を理解するページ、平家、能、地歌、義太夫節の鑑賞ページを収録しました。それぞれに、実際に声を出して体験するコーナーがあり、実感を伴った学習ができるよう配慮しています。

New 日本の伝統音楽

他にも、能《羽衣》、地歌《黒髪》《越後獅子》、義太夫節《一谷嫩軍記》《組討の段》を同様に掲載しています。

New 日本各地の伝統音楽



P.60・61

音が実際に聞こえてきそうな写真とともに、各芸能の由来、音楽的特徴を説明しています。

日本の伝統音楽の主な種目の成立時期を大まかに示し、それぞれの種目について簡単に説明しています。

文学作品として知られている『平家物語』が実は音楽作品であることなど、平家の歴史や特徴について説明しています。

『平家物語』の冒頭「祇園精舎の鐘の声」がどのような音楽だったのか、QR動画の演奏を参考にして、実感を伴いながら学習することができます。

日本の伝統音楽の特徴を以下の4つのテーマで説明しています。
 ①多様な音楽が併存する ②外来の音楽を独自に発展させる
 ③唱歌で伝承する ④ことばと音楽が深く関わる

今回は、日本各地の伝統芸能の中から、以下の4つの芸能を取り上げています。
 ●風の盆(富山県) ●花巻まつり(岩手県)
 ●三社祭(東京都) ●那智の田楽(和歌山県)

歌唱・器楽・創作

※ は新規掲載

芸術歌曲、オペラのアリア、ポピュラーソング、ミュージカルや映画のナンバー、合唱曲など、長い間親しまれてきた楽曲を豊富に掲載しています。

歌唱

芸術歌曲、オペラのアリア

- 日本語：《からたちの花》《浜千鳥》
- イタリア語：《うつろの心》《カタリカタリ》
《優雅な月よ》《愛の喜び》
- ドイツ語：《君はまるで花のよう》
《おれは鳥刺し》《セレナード》《君を愛す》
- フランス語：《夢のあとに》

ポピュラーソング、ミュージカルや映画のナンバー

- 日本語：《糸》《何度でも》
- 英語：《Born This Way》
《Shall We Dance? (同二)》
《雨にぬれても (同二)》
- フランス語：《ロウ人形、音人形》

合唱曲

- 日本語：《夏は来ぬ(同三)》
《流浪の民(混四)》
《いざ起て戦人よ(男四)》
- ラテン語：《アヴェ ヴェルム コルプス(混四)》

器楽

手拍子

《クラッピング カルテット 第2番》

ギター

《Stand By Me》《Blackbird》

アンサンブル

(歌、ピアノ、ギター×2、打楽器)

《ばらの花》

リコーダー

《ロンド》

篠笛

《鼓動の舞》《秋の宵》

創作

場面のイメージに合ったBGMをつくる活動を通して、音楽的な感性を働かせながら、創作に取り組むことができます。



五線や音符を使わずに取り組める創作活動も充実しています。

P.38

New

3 QRコンテンツ

『高校生の音楽1』に引き続き、充実した学習をサポートするさまざまなQRコンテンツを用意しました。歌唱曲の伴奏や主な外国語曲の原語歌詞による発音をはじめ、日本音楽や世界の諸民族の音楽の授業に役立つ音源や動画を充実させています。

QRコンテンツリスト

P.3	音楽って何だろう？		エッセイ「音楽って何だろう？」
P.8	Born This Way		ピアノ伴奏
P.10	糸		ピアノ伴奏
P.12	何度でも		オーケストラ伴奏
P.14	からたちの花		ピアノ伴奏
P.16	うつろの心		原語歌詞発音、ピアノ伴奏
P.18	君はまるで花のよう		原語歌詞発音、ピアノ伴奏
P.20	おれは鳥刺し		原語歌詞発音、ピアノ伴奏
P.22	口人形、音人形		原語歌詞発音、ピアノ伴奏
P.26	鼓動の舞		篠笛の唱歌・演奏
P.28	Stand By Me		ギターの奏法の解説
P.30	ばらの花		演奏サポート動画
P.40	時代を超えて鳴り響く 《怒りの日》		グレゴリオ聖歌《怒りの日》模範演奏
P.49	音楽史上の大事件となった 《春の祭典》		《春の兆しー乙女たちの踊り》冒頭
P.52	音楽って何だろう？③音律		ピュタゴラス音律について
P.55	平家		参考楽譜、模範演奏
P.56	能		参考楽譜、模範演奏
P.57	地歌		参考楽譜、模範演奏
P.58	義太夫節		参考楽譜、模範演奏
P.63	『ラーマ物語』を題材とした芸能		ワヤンクリの上演
P.64	音楽旅行記「世界をめぐる！ アフリカ音楽のDNA～カメルーン～」		音楽旅行記の作り方、参考動画
P.68	音楽って何だろう？④音階		各音階を使った音楽の演奏
P.70	浜千鳥		ピアノ伴奏
P.72	カタリカタリ		ピアノ伴奏
P.74	優雅な月よ		ピアノ伴奏
P.76	愛の喜び		ピアノ伴奏
P.80	セレナード		ピアノ伴奏
P.84	君を愛す		ピアノ伴奏
P.86	夢のあとに		ピアノ伴奏
P.90	夏は来ぬ		ピアノ伴奏
P.92	流浪の民		ピアノ伴奏
P.96	アヴェ ヴェルム コルプス		ピアノ伴奏
P.98	Shall We Dance?		オーケストラ伴奏
P.99	雨にぬれても		オーケストラ伴奏
P.110	コード表		ギターとキーボードによるコードの実演
P.112	音楽に関する知的財産権＝著作権		JASRACホームページ「音楽著作権とは」、 ケーススタディ

…テキスト …音声 …画像 …動画

歌唱

ほぼ全ての歌唱教材の伴奏を視聴することができます。パート練習や試験の際の伴奏としても活用することができます。

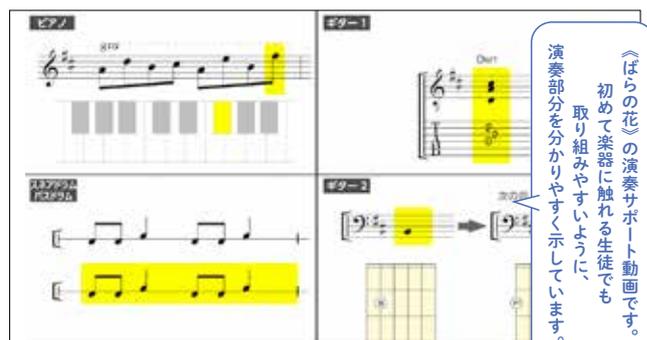


主な外国語曲の原語歌詞による発音を視聴することができます。口の形や舌の位置などに注目して、各言語特有の発音を練習することができます。

器楽



篠笛の模範演奏を視聴することができます。正面と斜め後ろの角度から指や口の当て方を確認することができます。



《ばらの花》の演奏サポート動画です。初めて楽器に触れる生徒でも、取り組みやすいように、演奏部分を分かりやすく示しています。

新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『高校生の音楽2』のご紹介
[高等学校用教科書 内容解説資料]

鑑賞

バレエ《春の祭典》の斬新なリズムと和音を体感するための動画です。聴くだけでなく、実際に演奏してみることで学習をさらに意義深いものにすることができます。

ガムランの演奏とともに上演される、インドネシアの影絵人形芝居「ワヤンクリ」の動画です。スクリーンの後ろから見た様子を視聴することができます。



日本の伝統音楽では、各種目の超一流の演奏を視聴することができます。稽古の現場で行われている、師匠から弟子への口伝による音楽伝承を疑似体験することができます。また、各種目の音楽を比較しながら鑑賞することもできます。

資料



コード表からは、各コードのギターとキーボードの実演動画を視聴することができます。右手、左手の使い方を動画で確認しながら、好きな曲のコード伴奏を練習することができます。

こちらのQRコードからQRコンテンツを視聴することができます。



1 新しい『MOUSA 2』

『MOUSA』は「卒業後も手元に残しておきたい教科書」であることを刊行以来のコンセプトにしています。令和5年度から使用される新しい『MOUSA 2』では、『MOUSA 1』の流れを継承しつつ、音楽をより深く学べるようにしました。



P.2・3 口絵／モーツァルト《魔笛》(メトロポリタン・オペラ2017年公演から)

1. 扱いやすい教材

『MOUSA 1』に引き続き、生徒に日々接している先生方の実践的なアイデアを具現化しました。歌唱・器楽教材は著作者自ら試演を重ね、創作教材も具体例を挙げ手順を丁寧に示しています。生徒どうしの会話による楽曲分析を提案する「大解剖」シリーズでは、《からたちの花》を取り上げました。

2. 音楽の学びをより深める

さまざまなジャンルから、音楽の学びをより深めることのできる曲を厳選し、掲載しました。「ジャンル別MAP」では、生徒が幅広く音楽と関わることができるよう配慮しています。また、生活や社会の中の音や音楽と関連付けた内容として、ミュージカルや映画音楽も取り上げました。

3. 多角的な視点

表現と鑑賞の一体化を図った教材など、多角的な視点から一つの作品にアプローチできるよう工夫している他、〔共通事項〕を手がかりに学習を進めることのできる教材も掲載するなど、「主体的・対話的で深い学び」の本質に触れることができます。

4. QRコンテンツの充実

QRコンテンツを用いて視聴したり、調べたりすることができる学習活動を充実させました。歌唱教材では、朗読やリズム読みによる原語歌詞の発音を、器楽教材では、楽器の仕組みや奏法などを、紙面のみではなく、音声や動画などでも確認することができます。

新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『MOUSA 2』のご紹介
 [高等学校用教科書 内容解説資料]

『MOUSA 1』の流れを引き継いで

「主体的・対話的で深い学び」を継続し、音楽についての理解を深め、個性豊かな音楽表現の工夫を促しながら、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育むことができます。

グループの会話を参考に《からたちの花》を分析

「主体的・対話的で深い学び」の本質に触れることができます。

New

P.28・29

発声の基本と実践

基本的な発声を身に付けるために最適な教材《Alleluja》を扱ったこのページは、1年を通して活用することができます。

P.10・11

個々の創造性を育むとともに、グループ活動によって協働しながら主体的に取り組むことのできる教材

ボディー・パーカッションは楽器を用いないため、無理なく取り組むことができます。

New

P.23

〔共通事項〕を手がかりに学習を進めることのできる教材

「音楽を織りなすさまざまな要素」を参考に、音楽を形づくっている要素が曲想とどのように関わっているのかを主体的に捉えることができます。

P.98・99

ジャンル別MAP【歌唱・器楽編】

多様な活動の状況に対応できます。

P.8・9 ジャンル別MAP

2 教材紹介

新たな企画

生活や社会の中の音や音楽、音楽文化の中でも触れる機会が多いと思われるミュージカルや映画音楽を取り上げ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽についての理解を深め、創意工夫を生かした音楽活動につなげられるような教材を用意しました。

New

歌唱 鑑賞

ミュージカル

数々の傑作を世に送り出しているロイド＝ウェバー作曲のミュージカル《オペラ座の怪人》を取り上げました。鑑賞をする際に物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などが理解しやすいよう紙面構成を工夫しています。また、ミュージカル・ナンバーを歌唱教材としても取り上げ、多角的な視点からアプローチすることにより、個性豊かな音楽表現を促すねらいもあります。



P.64・65



P.62・63

New

鑑賞 映画音楽

100年以上にわたり、多くの人々を夢中にさせてきた映画にとって、今や音楽は欠かせないものとなっています。MOUSA2では見開きで映画音楽を特集。左ページに掲載した映画は、代表的な映画音楽やクラシック音楽が使われている作品です。右ページでは、映画『ハリリー・ポッターと賢者の石』を取り上げ、あらすじや主要なテーマを鑑賞のヒントとして掲載しています。

新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『MOUSA 2』のご紹介
 [高等学校用教科書 内容解説資料]

New
歌唱 鑑賞

オペラ

モーツァルトのオペラ(ジ
 ングシュピール)《魔笛》を、
 3つの観点からアプローチ
 しています。まず口絵(本
 誌P.20参照)では、舞台の
 様子を大きく掲載し、音楽
 の世界へととぎざないま
 す。また、歌唱教材と鑑
 賞教材それぞれにアリアを
 厳選。歌唱教材用のアリア
 は、原語だけでなく、声楽
 家の宮本益光氏による日
 本語詞も併せて掲載する
 ことにより、心情を捉えや
 すくなり、表情豊かに歌う
 ことができます。

P.50

▶オペラ(ジングシュピール)《魔笛》K.620から
 (復讐の心は地獄のように胸に燃え)

モーツァルト(1756～1791)のオペラの多くはイタリア語の台本によるものだが、ドイツ語の作品もいくつか残されている。シカネーダー(1753～1812)のドイツ語の台本による《魔笛》は、1791年にウィーンで初演された。このアリアは、後の女王が魔術ザラストロに対する怒りに燃え、歌のパレーナに身を投ずる場面で歌われる。高音域で雄渾かつ技巧的な歌唱法を用いた、ソプラノ歌手の技術が試される曲であり、難がせごころの一つにもなっている。

歌唱：アリア
 《Der Vogelfänger bin ich ja
 (オイラは鳥刺し)》

鑑賞：オペラ・アリアを味わおう

P.102

New
創作

デジタル・コンテンツの活用につなげる

コンピュータの発展とともに、音楽をコンピュータで制作する「DTM(デスクトップ・ミュージック)」が進化し、近年ではDAW(Digital Audio Workstation)ソフトによる音楽制作が主流となっています。『MOUSA 2』では、その基本的な制作方法の例を紙面に再現し、デジタル・コンテンツを活用した創作につなげるよう試みました。



創作4では、ダンス・ミュージックの一つである「EDM(Electronic Dance Music)」を取り上げました。4拍子を基本としたリズム・パターンや短いフレーズの反復、循環コードなど、創作のヒントがあふれています。

創作の手順を丁寧に示しています。
 QRコンテンツの音源を利用して、
 選んだリズム・パターンを再生しながら、
 メロディーやコード進行を考えることもできます。
 また、作品例も聴くことができます。

P.60・61

New

3 QRコンテンツ

音声や動画などの充実したQRコンテンツを用いて、実際に視聴しながら確認することにより、知識の習得を確かなものにすることができます。

※ は新規掲載

器楽

ウクレレ

『MOUSA 1』に引き続き、『MOUSA 2』でもウクレレを取り上げています。QRコンテンツでは、ウクレレの奏法(ストローク奏法、ウクレレソロ、ジャカソロ)を動画で確認することができます。

楽器や奏法の説明と楽譜を見開きに配置し、学習に取り組みやすい紙面構成になるよう工夫しています。

掲載曲：

- 《Kaimana Hila》
- 《Happy Birthday to You》
- 《Crazy G》



P.30・31

器楽

ギター

段階を踏んだストローク奏法の学習や、アルペジオ奏法など、ギターのさまざまな奏法を動画で確認することができます。

ギターの奏法を動画で確認することができます。



掲載曲：《天体観測》《愛のロマンス》《Tears In Heaven》

器楽

和楽器

各学校の実態に応じてさまざまな和楽器を選択できるよう、三線、篠笛、箏の3種類を取り上げました。それぞれの奏法を動画で確認することができます。

和楽器の演奏を動画で鑑賞することができます。



新しい「高等学校 芸術科 音楽Ⅱ」の教科書
『MOUSA 2』のご紹介
 [高等学校用教科書 内容解説資料]

資料

ギター／キーボード・コード表

116 ギター／キーボード・コード表

ギターコード表 (C, C#/D, D, D#/E, E, F) の楽譜と指法図が掲載されています。各コードの指法図は、ギターとキーボードの両方で表示されています。

P.116

各コードの押さえ方を動画で確認することができます。

各コードの押さえ方を動画で確認することができます。

その他、リップロールやボディー・パーカッションの演奏例も動画で確認することができます。

歌唱

外国の歌曲

原語歌詞の朗読とリズム読みを聴くことができます。

イタリア語の歌曲

《Funiculi-Funiculà》

《Nel cor più non mi sento (うつろな心)》

《Vaga luna, che inargenti (優雅な月よ)》

《Quando me n' vo, soletta per la via (私が町を歩くと)》

ドイツ語の歌曲

《Sehnsucht nach dem Frühlinge (春への憧れ)》

《Der Lindenbaum (菩提樹)》

《Der Vogelfänger bin ich ja (オイラは鳥刺し)》

フランス語の歌曲

《Je te veux (あなたがほしい)》

ソルフェージュ

音を聴き取る練習／リズムを聴き取る練習

音を聴き取る練習 ビアの音を聴き取って、1)内に音を書き入れよう。

リズムを聴き取る練習 リズムを聴き取った後、続けてそのリズムを手拍子で打とう。

演奏例を再生することで、各自で聴き取り課題の実施が可能になります。

P.20

こちらのQRコードからQRコンテンツを視聴することができます。

音楽診断

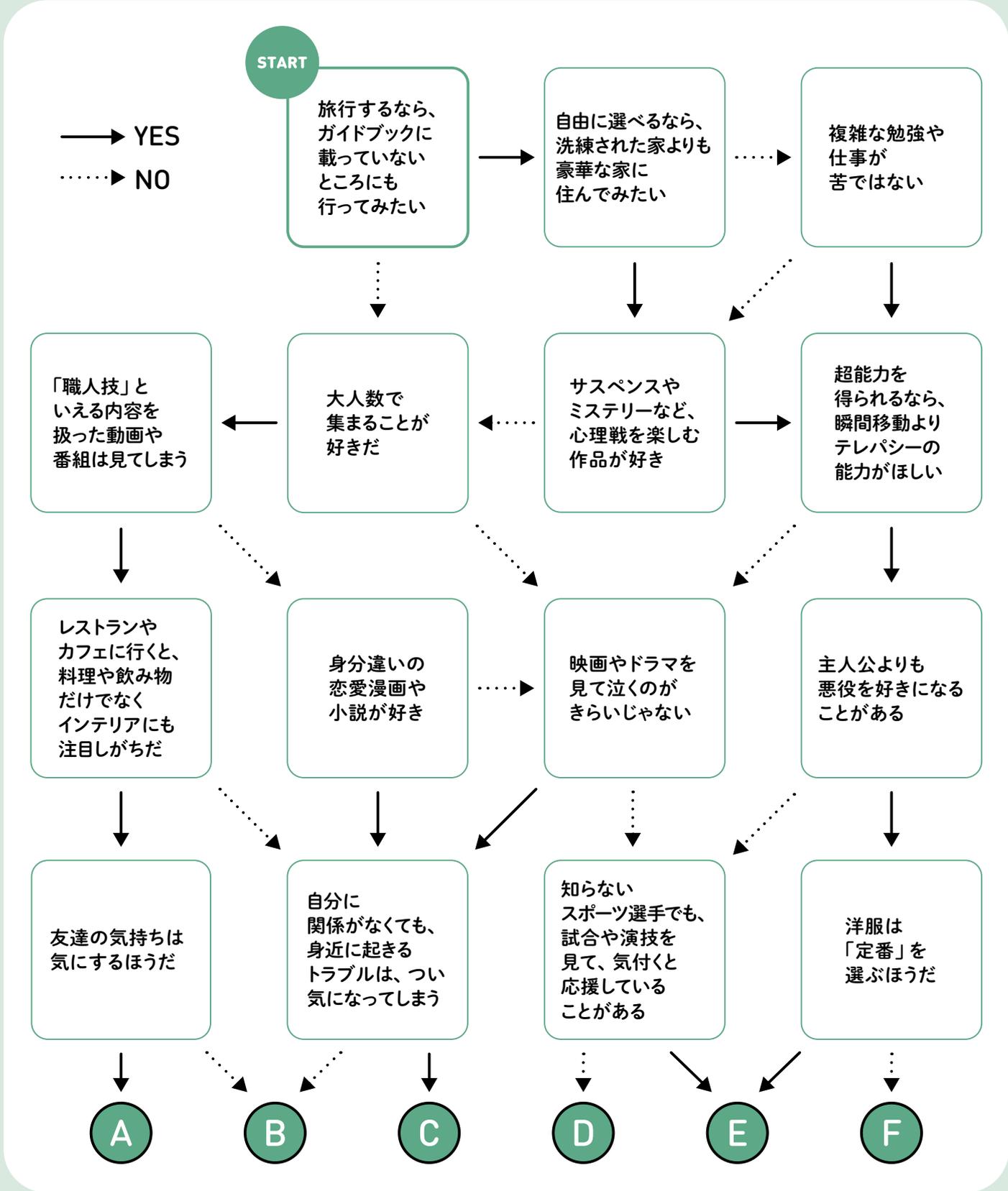
第14回

ヴェルディの名作オペラ編



『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第14弾。
「オペラ王」とも呼ばれるヴェルディの名作オペラ6曲から、
あなたにおすすめの作品をご紹介します。

監修・解説 = 岸 純信
Text = Suminobu Kishi



ジュゼッペ・ヴェルディ (1813年～1901年)

19世紀中盤からイタリアのオペラ界の頂点に立ったジュゼッペ・ヴェルディ。ドイツのワーグナーと肩を並べたが、唯我独尊のワーグナーと違って、ヴェルディは同時代の他の作曲家の作風に常に注目し、良いと思った他者のアイデアはすぐに取り込んで、自分なりに発展させるといった曲作りを行った。結果、彼のオペラでは音楽表現が非常に多彩になり、大勢の人々が出る賑やかな見せ場から、孤独な人間の内面に踏み込むしみじみとしたシーンまで様々な境地を作り上げ、多くの人に共感される名作をたくさん遺している。



あなたにぴったりの作品は？

A 悲恋を描いた名作 『椿姫』〈乾杯の歌〉

(初演：1853年/ヴェネツィア、フェニーチェ劇場)

19世紀のバリで、富裕なパトロンを得て暮らす若い女性と純朴青年の悲恋を描く『椿姫』。主人公ヴィオレッタは、病気の回復を祝う夜会で、初対面の青年アルフレードが自分を熱愛していると知る。しかし、「パトロンも居る私なのに、この人は世間知らずだわ」と感じて、笑って相手にしないが、青年がたまたま即興で口にした〈乾杯の歌〉(第1幕)に心が動き、自分もその歌を受け継いで歌いながら、彼の素直さにどんどん惹かれてゆく。



B 古代エジプトが舞台の愛の物語 『アイダ』〈凱旋行進曲〉

(初演：1871年/カイロ歌劇場)

古代エジプトとエチオピアの対立をドラマの背景とする『アイダ』は、戦勝国エジプトの將軍ラダメスと敗戦国エチオピアの女王アイダの恋愛を通じて、「平和を望む心」を音楽で豊かに描いた一作。第2幕の〈凱旋行進曲〉は、戦勝を声高らかに祝う民衆が舞台を埋め尽くす壮麗な見せ場だが、身分を偽ってエジプト王女の女奴隷になっているアイダは、恋人ラダメスの無事を喜ぶ一方で、敗れた祖国の苦しみを想い、独り嘆いている。



C 息をもつかせぬ緊迫のストーリー 『運命の力』〈序曲〉

(改訂版初演：1869年/ミラノ、スカラ座)

18世紀スペインの侯爵令嬢レオノーラが、南米の血を引くアルヴァーロとの恋を反対され、駆け落ちする際に銃が暴発して父親を死なせたことで、兄のカルロに「親の仇!」と命を狙われる悲劇。離れ離れの恋人たちは最後に再会するが、その直前、兄のカルロがアルヴァーロとの決闘で傷を負い、死ぬ寸前に妹を刺してしまう。この序曲は、人々の過酷な運命を金管と弦楽器で鋭く表現したものの、ハーブの優しい響きは天の眼差しを象徴する。



D ドラマティックな展開に引き込まれる 『イル・トロヴァトーレ』〈鍛冶屋の合唱〉

(初演：1853年/ローマ、アポロ劇場)

15世紀のスペインで、生き別れになった兄弟が、実の血縁関係を互いに知らないまま、独りの女性を巡って争う悲劇。兄は伯爵家の跡取りになり、弟は流浪の民ロマの男として成長する。この〈鍛冶屋の合唱〉は第2幕でロマの男女が高らかに歌い上げる賑やかなコーラス。夜明け近く、焚火の前で人々は、加熱した金属を鍛えるべく、鉄床の上で叩きながら、朗らかに声を合わせる。荒々しい歌声と打楽器の華々しさが絡み合う名場面である。



E 美しい旋律で彩られる傑作オペラ 『リゴレット』〈女心の歌〉

(初演：1851年/ヴェネツィア、フェニーチェ劇場)

16世紀イタリアの大貴族、マントヴァ公爵は女好きの若者で、次々と恋愛の相手を変えてしまうという罪な男。彼が新しく目を付けたのは、お抱えの道化師リゴレット(背中に病を持つ)の美しい娘ジルダ。しかし、彼女が自分に夢中になった途端、公爵は次の相手を探すべく、美女がいると噂の酒場に出向き、「女心は風の中の羽のように軽やかに舞う」と鼻歌を歌う(第3幕)。ヴェルディのオペラで最も人気の高い、軽妙な一曲である。



F ヴェルディの集大成 『オテロ』〈柳の歌〉

(初演：1887年/ミラノ、スカラ座)

15世紀末。ヴェネツィア共和国の將軍であるオテロは、黒人の身でキプロス総督にまで出世した偉大な軍人だが、彼の部下ヤーゴは、後輩カッジオに目をかける総督を憎み、その妻デズデモナがカッジオと不倫しているという嘘をオテロに信じ込ませる。結果、総督は人々の前で妻を侮辱。その夜、デズデモナは独り、昔の侍女バルバラの可哀そうな身の上を思い出し、彼女が歌った〈柳の歌〉を口ずさみ、その境遇を自らに重ねてゆく(第4幕)。



岸 純信(オペラ研究者)

1963年生まれ。『音楽の友』『レコード芸術』『音楽現代』など雑誌や公演プログラムに寄稿。CD及びDVD解説多数。NHK教育『ららら♪クラシック』、NHK-FM『オペラ・ファンタスティカ』にたびたび出演。新国立劇場オペラ専門委員。静岡国際オペラコンクール企画運営委員。大阪大学外国語学部非常勤講師(オペラ史)。

研究大会

11月

November

1日(火)・2日(水)

令和4年度 全日本音楽教育研究会全国大会
山口大会(総合大会)
第53回 中国・四国音楽教育研究大会 山口大会
KDDI維新ホール 他

〈大会主題〉

楽しむっちゃ! 音楽 ～響きあおう 感動のきずなで～

[問い合わせ]

事務局

山口県立岩国総合支援学校 教頭 古川市郎

〒741-0061 山口県岩国市錦見 3-7-11

TEL 090-8713-0580

kogawa_ichiro@yahoo.co.jp

9日(水)

第70回東北音楽教育研究大会
第60回岩手県音楽教育研究大会 紫波地区大会
田園ホール 他

〈大会主題〉

『心に音楽のよここびを』

～音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育む

「指導と評価の一体化」の実現～

[問い合わせ]

事務局

盛岡市立洪民小学校 副校長 正木啓一

〒028-4132 盛岡市洪民字鶴塚114

TEL 019-683-2254 / FAX 019-683-1429

e9064@city.morioka.iwate.jp

11日(金)

第64回 関東甲信越音楽教育研究会
茨城大会(水戸大会)

水戸芸術館、みと文化交流プラザ 他

〈大会主題〉

～共に感じ共に楽しみながら 心むすぶ音楽を求めて～

※ハイブリッド開催で実施。授業公開・研究演奏は動画共有サイト、
研究協議はオンライン会議システムで公開する。

※参加は、音楽教育関係者限定。

※各分科会先着20名程度まで協議会に現地参加可。

※感染症拡大状況によっては完全オンライン開催も検討。

11日(金)

第64回 近畿音楽教育研究大会 滋賀大会
あいこうか市民ホール 他(甲賀市・湖南市)※予定

〈大会主題〉

つながり、かさなり、ひろがる音楽の学びを求めて

[問い合わせ]

事務局

栗東市立治田西小学校 校長 奥村真美

〒520-3024 栗東市小柿1-5-21

TEL 077-553-2017 / FAX 077-553-2022

● **18日(金)**

第64回 北海道音楽教育研究大会 十勝・帯広大会
帯広市民文化ホール 他

〈全道共通主題〉

『音楽のよさを分かち合い 確かな力を育む音楽教育』

〈大会主題〉

『音楽と豊かに関わる力を育み、
学びのつながり・広がりを実感できる音楽教育の創造』
～音楽で つながる心 つなげる学び 広がる世界～

[問い合わせ]

第64回 北海道音楽教育研究大会十勝・帯広大会運営委員会準備委員会事務局
広尾町立豊似小学校 校長 長谷川 充
〒089-2446 広尾郡広尾町字紋別18線50番地
TEL 01558-5-2144 / FAX 01558-5-2150
toyonisho@luck.ocn.ne.jp

— 新作合唱曲による公開講座 —

Spring Seminar

2022

コンクール自由曲向けの新曲発表会「Spring Seminar 2022」を開催いたします。

同声・女声・混声の各2曲(全6曲)を作曲家、司会者、合唱団と学びます。

- 収録による動画配信の形式で開催いたします。
- 「Nコン課題曲ワンポイントレクチャー」は実施しません。
- 詳細や最新情報は弊社ホームページ等でご確認ください。

- 申し込み：2022年3月29日(火)～7月31日(日)
- 動画配信：2022年4月27日(水)～8月31日(水)

- 司 会：藤原規生

作曲家：[同声] 信長貴富、横山裕美子
[女声] 山下祐加、大田桜子
[混声] 三宅悠太、なかにしあかね

- 合唱団：八千代少年少女合唱団
(指揮：長岡亜里奈)
おうたや
(指揮：田中エミ)
ユースクワイア アルデbaran
Youth Choir Aldebaran
(指揮：佐藤洋人)

- お問い合わせ：

株式会社教育芸術社
スプリングセミナー実行委員会
TEL 03-3957-1168
FAX 03-3957-1740

<https://www.kyogei.co.jp/spring-seminar/>



左記のQRコードより「スプリングセミナー2021」の動画の一部がご覧いただけます。
※期間限定

教育芸術社ホームページでは、この他の研究大会やイベントなどの情報も掲載しています。

https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/



内容は予告なしに変更となる場合がございます。

最新情報は、スプリングセミナーのFacebookでも発信いたします。

<https://fb.me/kgsspringseminar/>



編集後記

暖かな風が吹くと、子どもの頃に感じた新学年への期待を思い出します。大人にとっては毎年訪れる春ですが、子どもたちにとっては一度限りの学年の、大切なスタートの季節だと感じます。

今号の「授業者に訊く」でご紹介した大阪府立すながわ高等支援学校の生徒たちは、難しい曲にも臆せず生き生きと練習に取り組んでいました。また、桐朋学園小学校では積極的に歌いながらのびのびと活動を楽しむ児童たちの姿がありました。2校ともに、初心にかえて音楽の楽しさを実感した取材となりました。

本誌は特集に関連して、教育芸術社の教科書と同じ紙で製作しました。この紙は、弊社が教科書用に特注しているものです。ぜひ手触りや質感、色などをお確かめください。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力を賜りました全ての方に、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

表紙・巻頭イラストレーション
スズキタカノリ

写真提供
藤原道山

イラストレーション
こぼやしみさこ

表紙デザイン・本文組版
STORK

音楽教育 ヴァン



発行者 株式会社 教育芸術社(代表者 市川かおり)

〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14

TEL. 03-3957-1175(代)

FAX. 03-3957-1174

<https://www.kyogei.co.jp/>

©2022 by KYOGEI Music Publishers. ©-22

本書を無断で複写・複製することは著作権法で禁じられております。

*ヴァン="vent"はフランス語で「風」。
新しい音楽教育の地平を切り開いていく
願いを込めています。



Recommend

オリジナル合唱ピース

○コンクール自由曲向けの新曲。

【同声編110】子どものはた(信長貴富 作曲)

【同声編111】山猫の夜(横山裕美子 作曲)

【女声編62】さんざえの祭り(山下祐加 作曲)

【女声編63】無伴奏女声合唱のための 歌を探そう(大田桜子 作曲)

【混声編112】なみだきらめく〜混声合唱とピアノのための〜(三宅悠太 作曲)

【混声編113】無伴奏混声四部合唱のための 明日(なかにしあかね 作曲)

●各定価660円(本体600円+税10%) / B5判

小学生のための合唱パート練習用CD

トリオン9・10

○合唱のパート別の歌とカラピアノが収録されているので、伴奏者がなくても簡単に音取りができます。

○トリオン9収録曲:いのちの歌(三宅悠太 編曲)/PRIDE(ブライド)/君をのせて/すてきな一歩/空は今/ぼくは ぼく

○トリオン10収録曲:ふるさと(youth case 作曲)/ビクトリー/風になりたい/あなたにありがとう/ひらり、/花の名前

●各価格3,300円(本体3,000円+税10%) / 1枚

●トリオン9: KGO-1201 ●トリオン10: KGO-1202



Chorus ONTA Vol.28

○混声合唱のためのパート練習用CD。「MY SONG 7訂版」掲載曲と最新のクラス合唱を中心に全12曲を選曲しました。

○収録曲:地球の詩(2021年編曲版)/歌が息をする/夢を追いかけて/幸せ/心のキャッチボール/ハートのアンテナ/大地のように/このみち/四季の歌/あの山を思い出そう/歓喜の歌/足跡

●価格13,200円(本体12,000円+税10%) / 4枚組

●KGO-1197~1200



小学校 学校行事・授業のための新教材集

地球へ

○ふだんの授業から音楽会まで様々なシーンで使える曲を精選しました。

○収録曲:【低・中学年】ポストに はがきを いれるとき/ほしぞら【中・高学年】素晴らしい言葉/ハッピー・パースデー/#みんなで歌おう ~歌声と幸せがあふれますように/クラッピング ファンタジー 第10番 ゆかいなダンス/ジュラシック・パークのテーマ【高学年】地球へ/帰る場所/僕と君の未来へ/クラッピング ファンタジー 第11番 ヘッドウェイ ~力の限り前へ~/Paradise Has No Border

●定価880円(本体800円+税10%) / B5判 / 48ページ

●ISBN978-4-87788-976-0



準拠CD(別売り)

●価格1,980円(本体1,800円+税10%) / 1枚

●GES-15943

クラス合唱用 MY SONG 7訂版

○定番曲から新曲まで、魅力的なラインナップによる全64曲。混声二部、感動を呼ぶ新曲、混声四部合唱の掲載曲をさらに充実させました。

○難易度や対応するONTAの情報、各曲のプロフィールなど、選曲に役立つ情報を目次に掲載しています。

●定価860円(本体782円+税10%) / B5判 / 352ページ

●ISBN978-4-87788-971-5



準拠CD(別売り)

●上巻: 価格7,920円(本体7,200円+税10%) / 3枚組

●GES-15921~15923

●下巻: 価格8,800円(本体8,000円+税10%) / 4枚組

●GES-15924~15927

